

## シロコタケノコに関する研究 (Ⅲ)

## — 客土とシロコタケノコの発生との関係 —

福岡県八幡農林事務所 中野久美子  
 福岡県水産林務部 奈須 鉄也  
 福岡県林業試験場 野中 重之  
 九州大学農学部 吉良今朝芳

## 1. はじめに

前報<sup>2)</sup>で良品生産のために客土が広く実施されていることを報告したが、客土の違いによる良品発生について、出荷状況からその効果を調査したので報告する。

## 2. 調査の方法

調査対象は、北九州市小倉南区のO出荷組合で、この組合の平成4年と平成5年の出荷伝票をもとに調査した。この地域の土壌は、赤褐色の粘質土壌で土層も深いことから良質のタケノコが生産される。組合員数49名、組合員所有竹林面積90ha、一組合員平均の改良竹林面積は0.9ha、タケノコ生産従事者数2.6人と見込まれる<sup>3)</sup>。

この組合の平成元年度からの客土状況は表-1のとおりである。平成4年度にのみ客土をした所有者a~nと、元年度から3年度の間客土をしたことのある所有者o~v、過去4年間一度も客土をしていない所有者をw~と、3グループに分けて比較した。

客土は自家竹林内からの機械切り取り、運搬、人力均しにより行われ、厚10cmを標準とする。時期は10月から始め、12月にはすべて終了する。

なお、特選品は、特に数字を抜き出したもの以外はA品に含めて計上している。

等級の選別基準は第1報<sup>1)</sup>のとおりである。

## 3. 調査結果および考察

## (1) A品についての比較

A品の出荷量と出荷比率は表-2のとおりである。4年のA品率は、それ以前の3年間に客土をしたことのあるo~vが最も高く14.8%、4年出荷時点で客土をしたことのないa~nおよびw~はそれぞれ13.1%、13.2%と低く、またこの二者はA品率に大差がないことからわかるとおり、旬別等級別出荷状況は大差なく、平成4年度の客土はほぼ平均した無客土竹林で実施されたものと思われる。

平成5年度には、客土実施1年目のa~nはA品率13.9

%と上昇、o~vは12.4%と前年より低下したものの、全体のA品率より上回っている。w~は9.0%と大きく減少した。

客土による発旬の遅れの懸念については、a~nとw~の各々の出荷総量を100とした平成5年の旬別出荷比率を図-1に示した。これによると、むしろ客土実施者の方が、無客土者より出荷ピークの前半により多く出荷している傾向すらみられる。また、この二者について旬別A品率を図-2に示すとおり、客土実施者の方がA品率が高く、時期が早いほどその差が大きい傾向がみられる。これは地表の割れ等から早くタケノコを見つけることができるためであると思われる。

以上のことから、客土実施者は、ピークの前半にA品を多く出荷でき、より高収益を得られることが予想される。

## (2) 特選品(シロコタケノコ)についての比較

特選品の客土状況別集荷量を表-3に示す。青果に占める割合は例年0.1%前後であったが、平成5年には大きく減少した。このなかでa~nは出荷量を40kgから45kgに増加させ、o~vは30kgから10kgへの減少、w~は240kgから5kgへと大幅に減少させた。

このことから、客土実施者は出荷ピークの後半に特選品を出荷する割合が増え、客土によりシロコタケノコの発生が増加しているものと思われる。

## (3) 降水量による影響について

平成5年は図-3のとおり、前年に比べ、1月から4月中旬まで降水量が少なく、前年の2分の1であった。この影響で、出荷量は少なく、質の面では土中のものを掘りとってもC品やD品といったケースがめだった。この状況を図-4~5に示す。このなかで、表-1g氏竹林では、平成5年にシロコタケノコが客土実施後の一箇所から集中して発生し、特選品出荷を10kgから20kgに増加させた。この箇所は作業道下斜面の雨水の流れ込む位置で、約10m<sup>2</sup>の範囲、客土厚30cmの北東向き斜面であった。

このことから、良品生産には降水量も大きく影響し、平成5年は少雨の悪条件のなか客土実施者は良品出荷を

Kumiko NAKANO (Yahata Br. Fukuoka Pref. off., Kitakyuushu 807), Tetsuya NASU (Dep. of Fishery and For. Fukuoka Pref. off., Fukuoka 812), Shigeyuki NONAKA (Fukuoka Pref. Forest Exp. Stn., Kurogi, Fukuoka 834 - 12) and Kesayoshi KIRA (Fac. of Agric., Kyushu Univ., Fukuoka 812)

Studies on Shiroko bamboo sprouts (Ⅲ) Relation between soil dressing and Shiroko bamboo sprouts formation

増加させていることがわかる。

4. おわりに

以上より客土は出荷の前半にはA品、後半には特選品と期間をとおして良品の生産を促し、農家の収入の増大につながる事がわかった。しかし一方で、少雨による乾燥が良品の生産を制御することもわかった。今後は灌水施設等の整備の必要性を普及し、降水量と

良品発生との関係の調査、また、客土2年目以降の良品発生について追跡調査の必要がある。

引用文献

- (1) 奈須鉄也ほか：日林九支研論，45，263～264，1992
- (2) —————：日林九支研論，47，投稿中，1994
- (3) 福岡県水産林務部：林業普及資料，13～19，1991

表-1 O出荷組合 客土状況

	単位 ha			
	元年	2年	3年	4年
a				0.47
b				0.22
c				0.20
d				0.15
e				0.22
f				0.35
g				0.30
h				0.15
i				0.11
j				0.22
k				0.25
l				0.54
m				0.11
n				0.16
o	0.24		0.10	0.36
p		0.24	0.13	
q		0.10		
r		0.10		0.20
s			0.13	
t			0.16	0.15
u			0.10	
v			0.12	
合計	0.24	0.44	0.74	4.16

表-2 A品客土状況別出荷状況

	単位 kg			
	4年 A品	4年 出荷量	5年 A品	5年 出荷量
a~n	(13.1%) 12,888	98,208	(13.9%) 12,680	91,533
o~v	(14.8%) 5,802	39,225	(12.4%) 4,525	36,467
w~	(13.2%) 18,939	143,632	(9.0%) 10,329	115,026
合計	(13.4%) 37,629	281,065	(11.3%) 27,534	243,026

a~n：平成4年度にのみ客土実施14名  
o~v：平成元年度～3年度の間に客土実施8名  
w~：平成元年度以降客土なし27名

表-3 特選品客土状況別出荷状況

	単位 kg	
	平成4年	平成5年
a~n	40	45
o~v	30	10
w~	240	5
合計	310	60

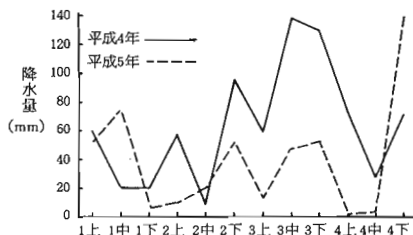


図-3 旬別降水量 (頂吉観測所)

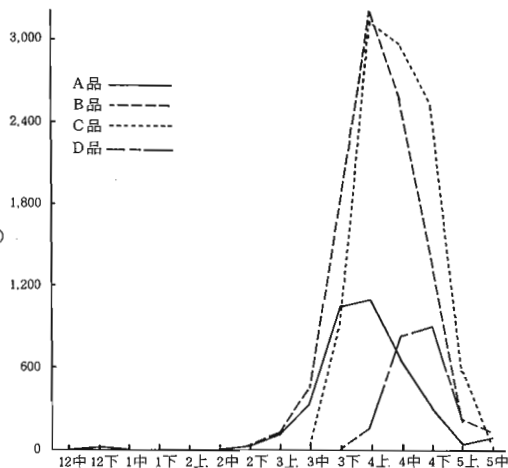


図-4 平成4年旬別出荷量 (平成3年12月～平成4年5月)

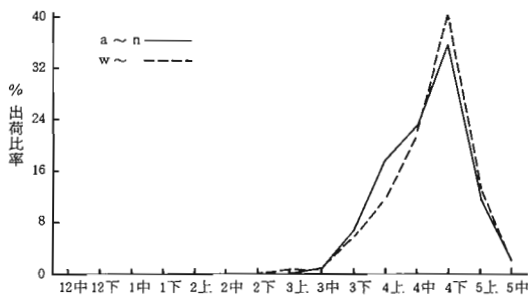


図-1 平成5年度出荷比率 (平成4年12月～平成5年5月)

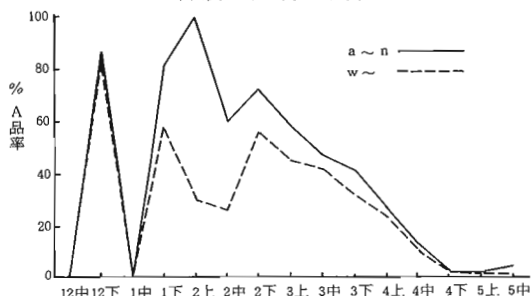


図-2 平成5年旬別A品率 (平成4年12月～平成5年5月)

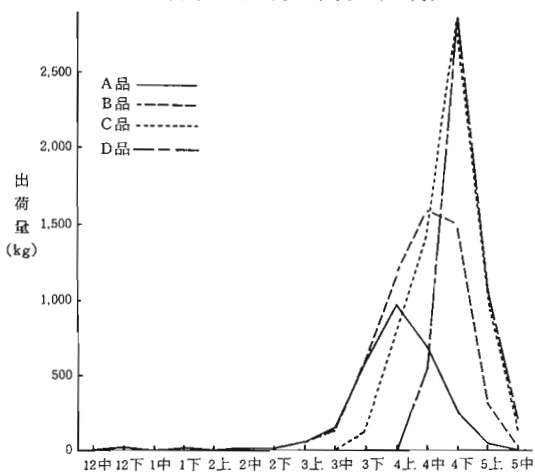


図-5 平成5年旬別出荷量 (平成4年12月～平成5年5月)